

資 料

愛媛県立今治南高等学校で確認された昭和初期に作製された愛媛県産の鳥類標本について

稲葉 正和 *

Bird specimens made in Ehime prefecture in the early Showa era are confirmed
at Ehime prefectural Imabari Minami High school
INABA Masakazu

Abstract : In public schools in Ehime prefecture, there are many specimens preserved, which had been used in natural history classes from the Meiji to the early Showa period. I have been conducting surveys of the specimens stored in the public schools in Ehime prefecture. While doing the survey at Ehime Prefectural Imabari Minami High School, I confirmed that the bird specimens obtained in the vicinity of Imabari city were from the early Showa period. I will report on some of the valuable specimens, with few observation records, found at Imabari Minami high school, which includes brent geese *Branta bernicla*.

キーワード : 愛媛県内の公立学校に収蔵されている標本調査, 鳥類標本, 昭和初期, コクガン *Branta bernicla*

Key words : Surveys of the specimens stored in the public schools in Ehime prefecture, Bird specimens, The early Showa period, Brent geese *Branta bernicla*

はじめに

愛媛県内の公立学校には明治から昭和初期にかけての博物学の授業で利用されていた多くの標本が保存されている。筆者は、それらの標本を調査し、標本の保存状態を確認するとともに、発見した標本を可能な限り本館に移管する活動を行っている。愛媛県立今治南高等学校の標本調査において、昭和初期に今治市近郊で採集された鳥類の標本4点（コクガン、ミゾゴイ、ウミアイサ、ヤマシギ）を確認した。確認した標本の中には、四国での観察記録が少ないコクガン *Branta bernicla* の標本も含まれていたため報告する。

コクガンについて

コクガン *Branta bernicla* はカモ科コクガン属に属する小型のガンで、国の天然記念物に指定されている。本種は夏の間は北極圏の海に近いツンドラ地帯を繁殖地として利用し、冬鳥として10月以降に日本に飛来して越冬する。繁殖地ではイネ科やカヤツリグサ科の草を食べているが（呉地, 1996）、春や秋の渡りの時期に経由する地域では、アマモなどの海草類やアオノリなどの海藻を好んで捕食することが確認されており（Ganter, 2000 ;

嶋田ほか, 2013 ; 平田ほか, 2015）、日本での観察記録は海辺の地域が多い（Hiroyuki Morioka, 1985 ; 嶋田ほか, 2013 ; 平田ほか, 2015）。かつては日本列島の内湾や入り江に数多く飛来していたと考えられるが（長谷川, 1995）、現在では北海道や青森県、岩手県、宮城県の沿岸等で集中的に観察されており、その他の地域での観察記録は稀である（環境省, 2016）。現在、日本に飛来するコクガンの観察個体数は観察地点数の増加に伴い、漸増しているが、越冬地に必要な藻場の減少など生息を脅かす条件もある（呉地, 2014）。そのため、環境省レッドリスト2017で絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定され、その保護が推奨されている（環境省, 2017）。

四国におけるコクガンの最初の観察記録は1925年1月中旬に高知市浦戸湾にて2羽のコクガンが観察されたもので、最初の採集記録は、1947年12月24日高知県幡多郡宿毛町（現高知県宿毛市）の松田川河口とされている（宇田川, 1949 ; 黒田, 1968 ; 石原, 1982）。宇田川（1949）では、高知県で採集された標本は林業試験場に保管されていると記されている。そこで、森林総合研究所四国支所に問い合わせたところ、宇田川龍雄は当時東京都目黒にあった林業試験場と八王子にあった浅川実験林に所属しており、この標本はそのどちらかに保存されていた可能性が高いが、現在は所在不明となっている。

* 愛媛県総合科学博物館 学芸課 自然研究グループ
Curatorial Division, Ehime Prefectural Science Museum

との報告を受けた（根本成雄私信）。四国でのコクガンのその他の観察記録については、徳島県鳴門市海岸に稀に渡来し、1979年の冬に1羽が保護されたとの記録や徳島県小松島市で1986年2月に遊泳している個体の撮影記録などが報告されており、徳島県での報告が多い（石原，1982；石川ほか，1995）。第46回ガンカモ類の生態調査報告では、平成12年～26年の15年間に四国4県でコクガンの観察記録が報告されているが、徳島県でコクガンが観察された年が10回あるのに対し、その他の県では1回～2回程度と観察記録は少ない（環境省，2016）。

愛媛県におけるコクガンの飛来状況としては、1985年までは公式な記録は確認されていない（石原，1973；石原，1982；Hiroyuki Morioka, 1985）。1970年より行われているガン・カモ類調査において、愛媛県内でコクガンが確認されたのは、平成3年，平成19年，平成22年の3回のみであり、平成3年の36羽を除くと、いずれも1羽のみの記録となっている（環境省，1991，2007，2010）。これは西日本の他の地域におけるコクガンの観察記録と一致する（Hiroyuki Morioka, 1985）。ただし、毎年ではないが、西条市加茂川の河口付近においてコクガンの飛来が確認されている（山本貴仁私信）。コクガンは海沿いの地域を好むため、飛来した場所の地形によっては観察が困難な場合があり、実際にはもう少し多くのコクガンが愛媛県に飛来している可能性がある。

愛媛県立今治南高等学校に保管されていたコクガンの剥製のラベルには、採集地越智郡三芳、採集日昭和7年11月、採集・作製者山田教諭と記録されていた。三芳（現西条市三芳）は燧灘に面した遠浅の海岸が続いている地域である。この地域では、沿岸部の埋め立て工事などの影響でコクガンが好む藻場の面積は大きく減少している。しかし、現存する藻場が確認されており、過去にはより広い藻場が存在していたと考えられる。そのため、三芳付近の藻場に飛来したコクガンを山田教諭が採集し、授業の教材等に利用することを目的として標本にしたものと考えられる。高知県で採集されたコクガンや徳島県で保護されたコクガンは1羽で飛来していたことから（宇田川，1949；石原，1982），今回発見されたコクガンも集団で越冬にきていたのではなく、1羽のみで飛来してきていた可能性が高い。確認したコクガンの標本は、愛媛県総合科学博物館鳥類標本（EPSM-AV-1300）として登録、保管している（写真1）。

ミゾゴイについて

ミゾゴイ *Gorsachius goisagi* はサギ科ミゾコイ属に属する渡り鳥である。本種は3月下旬ごろから繁殖地である本州、九州、四国および周辺島嶼での観察事例が増

加し、繁殖を終えた9月～11月頃に越冬地である東南アジアへと移動する（川上，2014）。営巣には広葉樹を好んで利用し、一度利用した巣の付近で翌年以降も繁殖する例が報告されている（江崎ほか，2008；石川ほか，2012）。国内では、過去50年ほどの間に宅地開発や道路の造成が進んだことで、多くの自然林が失われており、営巣場所を失ったミゾゴイの観察記録が少なくなっていることから、全国的に個体数は減少していると考えられる（川上，2014）。そのため、環境省のレッドリスト2017では、絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定され、その保護が推奨されている（環境省，2017）。

愛媛県では重信町（現東温市）での目撃記録や松山市の山間部で繁殖していた記録が報告されている（石原，1973；石原，1982）。1995年発刊の愛媛の野鳥観察ハンドブックはばたきでは、ミゾゴイが中予と南予に飛来し、繁殖していることも報告されている（財団法人日本野鳥の会愛媛県支部，1995）。現在の愛媛県内でのミゾゴイの生息状況は、10カ所程度で営巣している場所が確認されているが、中予や南予に比べて東予での生息記録は少ない（愛媛県，2014）。

愛媛県立今治南高等学校に保管されていたミゾゴイの剥製のラベルには、採集地近見村、採集日昭和7年11月、採集・作製者山田教諭と記録されていた。近見村（現今治市近見町）は市内の中心部より北西に3kmほど進んだ緑豊かな地域で、近隣には標高244mの近見山がある。ミゾゴイの主要な繁殖場所は低山帯の樹林地であることから、この標本は近見山付近で採集されたものである可能性が高い。東予ではミゾゴイの生息を示す記録があまり確認されていないため、今回発見された標本は、過去にミゾゴイが分布していたことを示す標本である。確認したミゾゴイの標本は、愛媛県総合科学博物館鳥類標本（EPSM-AV-1301）として登録、保管している（写真2）。

ウミアイサについて

ウミアイサ *Mergus serrator* は、カモ科ウミアイサ属に属する渡り鳥で、冬鳥として九州以北に飛来する（桐原，2000）。第46回ガンカモ類生態調査報告では、平成12年～26年の15年間に四国4県で観察記録が報告されており、徳島県、香川県、愛媛県では毎年観察されている（環境省，2016）。愛媛県では、中予から東予の海岸に比較的多く生息しており、海岸近くの海上や河口に多く、数羽の群れになって行動する。（財団法人日本野鳥の会愛媛県支部，1995）。

愛媛県立今治南高等学校に保管されていたウミアイサの剥製のラベルには、かはあいさ、採集地楠河村、採集日昭和7年11月、採集・作製者山田教諭と記録されていた。そのため、当初はラベルに従いカワアイサ

Mergus merganser として取り扱っていた。しかし、博物館に移管したのち、カワアイサとしては少し体が小さいこと、胸部がはっきりとした白色でないことを確認した。そこで、より詳しく種の同定を行うため、全長、嘴峰、翼長を計測した。発見された標本は、全長 58cm、嘴峰 5.7cm、翼長 22cm であった。小林 (1985) によると、カワアイサの嘴峰は 40 ~ 57mm、翼長は 243mm ~ 280mm、ウミアイサの嘴峰は 48 ~ 62mm、翼長は 217mm ~ 259mm と報告されている。今回発見された標本の嘴峰はカワアイサの嘴峰のサイズにはいるが、翼長は 22cm でカワアイサの翼長としては短い。そのため、発見された標本は、ウミアイサであると判断された (山本貴仁私信)。

ウミアイサは、瀬戸内海では冬期に♀と幼鳥のみの群れが多く、♂は比較的少ないと報告されている (小林, 1985)。この個体が採集された楠河村 (現西条市楠・西条市河原津) は道前平野の北西端にあたる地域で、コクガンが採集された三芳村の隣にある。楠河村にあたる地域には大きな河川や湖沼はなく、波の穏やかな燐灘に面した地域であることから、今回発見されたウミアイサも海岸付近で採集されたものと推察される。確認したウミアイサの標本は、愛媛県総合科学博物館鳥類標本 (EPSM-AV-1328) として登録、保管している (写真 3)。

ヤマシギについて

ヤマシギ *Scolopax rusticola* はシギ科ヤマシギ属に属する渡り鳥で、日本においては北海道から本州中部、伊豆諸島で繁殖し、東南北部から四国、九州、沖縄で越冬する (桐原, 2000)。四国では冬鳥として低山帯でよく観察されており、愛媛県では柑橘園での観察記録が多く残っている (石原, 1973; 和田, 1973; 石原, 1982)。

ヤマシギは狩猟鳥であるが、地域によっては個体数が減少しており、現在 25 の都府県でレッドデータブックに記載されている (日本のレッドデータブック検索システム, 2017)。愛媛県においては、県内の各地域で生息が確認されており (財)日本野鳥の会愛媛県支部, 1995; 環境省, 2013)、ヤマシギの生息状況に差し迫った危機はないと考えられる。しかし、過去に比べるとヤマシギの生息数は減少してきており、今後何らかの対策をとる必要が生じるかもしれない。

愛媛県立今治南高等学校に保管されていたヤマシギの剥製のラベルには、採集地清水村、採集日昭和 7 年 11 月、採集・作製者山田教諭と記録されていた。清水村 (現今治市五十嵐周辺) は、今治市の中心部から 4km ほど南に離れた地域であり、水田とゆるやかな丘陵帯が続く田園地帯である。そのため、平地から里山の薄暗くうっそうとした森林内にすむヤマシギにとって (財)日本野鳥の

会愛媛県支部, 1995)、この地域は越冬地として適していたと考えられる。確認したヤマシギの標本は、愛媛県総合科学博物館鳥類標本 (EPSM-AV-1330) として登録、保管している (写真 4)。

おわりに

愛媛県立今治南高等学校では上記の標本以外にも、昭和 2 年 8 月に小笠原で採集されたオガサワラオコウモリ *Pteropus pselaphon* の前肢骨格標本や鳥島産のアホウドリ *Phoebastria albatrus* の剥製などの貴重な標本を確認している。その他の学校においても、貴重な標本を多数確認しており、現在そのリストの作成中である。今回は、愛媛県立今治南高等学校で発見された愛媛県産の鳥類標本についての報告を行ったが、今後はその他の標本についても順次報告していく予定である。

県内の公立学校に保存されている標本は、耐震化工事や校舎の建て替え工事の際などに、その価値を検討されことなく廃棄される事例が発生しており、憂慮している。今後は、今回の調査結果を広く公表することで、学校に保管されている標本の価値を教職員に認知してもらい、標本の適切な管理と博物館への円滑な移管を進めることができるよう普及啓発活動に努める必要がある。

謝 辞

末筆ながら、標本調査に快く御協力いただいた愛媛県立今治南高等学校教諭東睦雄氏、英文要旨を添削していただいた愛媛県立伊予高等学校教諭和田由起子氏、宇田川龍雄氏の標本の所在に関する情報提供をいただいた森林総合研究所四国支所根本成雄氏、愛媛県内の鳥類に関する様々な情報提供と御助言をいただいた西条自然学校理事長山本貴仁氏に厚く御礼を申し上げる。

引用文献

- Barbara Ganter (2000) : Seagrass (*Zostera spp.*) as food for brent geese (*Branta bernicla*) : an overview. Helgol Mar Res, 54, pp.63-70.
- 愛媛県 (2014) : 愛媛県レッドデータブック 2014 - 愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物 - 愛媛県レッドデータブック改訂委員会. 623pp.
- 江崎保男・彦根宏道・遠藤菜緒子 (2008) : 兵庫県三田市の市街地残存林でのミゾゴイの繁殖. 山階鳥学会誌, vol40 (2008-2009) No.1, pp.56-58.
- 長谷川博 (1995) : コクガン. 日本の天然記念物. 加藤陸奥雄・沼田 眞・渡部景隆・畑 正憲. 講談社. p.67.
- 平田和彦・先崎理之・堀本高矩・長船裕紀・酒井淳一・

- 中濱翔太・成田 翼・吉岡俊朗(2015):渡島半島東部・津軽海峡・陸奥湾沿岸域におけるコクガン *Branta bernicla* の越冬個体数および生息環境. 日本鳥学会誌, 64 (1), pp.77-82.
- 石原 保 (1973):愛媛県の野鳥. アマノ印刷有限会社. 32pp.
- 石原 保 (1982):四国の野鳥誌. 築地書館. 190pp.
- 石川和男・大野 正・澤田佳長・柴折史昭・曾良寛武・森川國康・山本正幸 (1995):四国の野鳥－シリーズ・四国の自然博物館. 高知新聞社. 215pp.
- 石川正道・浜口 寛・小西恭子・藤田一作・大鹿裕幸・川上和人 (2012):愛知県西三河地域におけるミゾゴイ *Gorsachius gousagi* の営巣樹種と立地環境. 日本鳥学会誌, 61 (2), pp.289-295.
- 環境省 (1991):平成3年度(第23回)都道府県別羽数. 入手先, 環境省自然環境局生物多様性センター ガンカモ類の生息調査の成果物の提供ページ, <https://www.biodic.go.jp/gankamo/seikabutu/index.html>, (参照 2017-4-8).
- 環境省 (2007):平成19年度(第39回)都道府県別羽数. 入手先, 環境省自然環境局生物多様性センター ガンカモ類の生息調査の成果物の提供ページ, <https://www.biodic.go.jp/gankamo/seikabutu/index.html>, (参照 2017-4-8).
- 環境省 (2010):平成22年度(第42回)都道府県別羽数. 入手先, 環境省自然環境局生物多様性センター ガンカモ類の生息調査の成果物の提供ページ, <https://www.biodic.go.jp/gankamo/seikabutu/index.html>, (参照 2017-4-8).
- 環境省 (2013):狩猟鳥獣のモニタリングのありかた検討会平成25年3月12日検討会資料4. 入手先, 環境省自然環境局野生鳥獣の保護及び管理狩猟鳥獣のモニタリングのあり方検討会, <https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort6/effort6-1/mat04.pdf>, (参照 2017-5-2).
- 環境省 (2016):第46回ガンカモ類の生息調査報告書(平成26年度). 入手先, 環境省自然環境局生物多様性センターガンカモ類の生息調査の成果物の提供ページ, <http://www.biodic.go.jp/gankamo/seikabutu/Index.html>, (参照 2017-4-8).
- 環境省 (2017):環境省レッドリスト2017. 入手先, 環境省レッドリスト2017の公表について, <http://www.env.go.jp/press/files/jp/105449.pdf>, (参照 2017-5-2).
- 川上和人 (2014):ミゾゴイ. レッドデータブック2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物－2鳥類. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室. ぎょうせい. pp.140-141.
- 桐原政志 (2000):日本の鳥 550 水辺の鳥. 株式会社文一総合出版. 351pp.
- 小林桂助(1985):原色日本鳥類図鑑新訂増補版. 保育社. 261pp.
- 呉地正行 (1996):カモ目. 日本動物大百科3鳥類 I. 日高敏隆. 平凡社. pp.56-60.
- 呉地正行 (2014):コクガン. レッドデータブック2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物－2鳥類. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室. ぎょうせい. pp.144-145.
- 黒田長禮 (1968):日本産ガン・カモ科鳥類の渡来地表 I. 鳥, 18 (85), pp.392-405.
- Hiroyuki Morioka (1985): Occurrence of the Brent Goose on the Oki Island, with Notes on the Distribution of the Species in Japan. 国立科学博物館専報, 18, pp.209-217.
- 日本のレッドデータブック検索システム (2017): ヤマシギ. 入手先 日本のレッドデータブック検索システム, <http://jpnrd.com/search.php?mode=map&q=02100040208>, (参照 2017-5-1).
- (財)日本野鳥の会愛媛県支部 (1995):愛媛の野鳥観察ハンドブックはばたき. 愛媛新聞社. 383pp.
- 嶋田哲郎・呉地正行・鈴木 康・宮林泰彦・樋口広芳 (2013):東日本大震災がコクガンの越冬分布に与えた影響. 日本鳥学会誌, 62 (1), pp.9-15.
- 宇田川龍男 (1949):コクガン四國にて採集さる. 鳥, 12 (59), pp.273-274.
- 和田豊洲 (1973):四国の野鳥. 高知営林局. 157pp.



写真1 コクガン (EPISM-AV-1300)



写真3 ウミアイサ (EPISM-AV-1328)



写真2 ミゾゴイ (EPISM-AV-1301)



写真4 ヤマシギ (EPISM-AV-1330)

